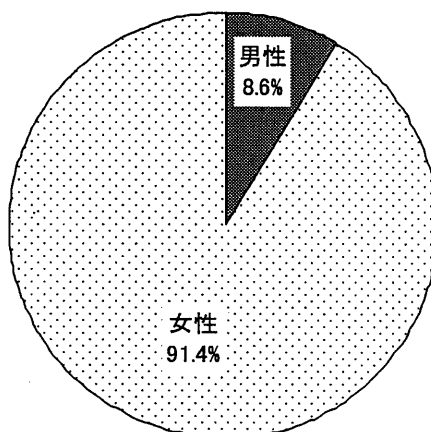


Ⅲ 個人調査

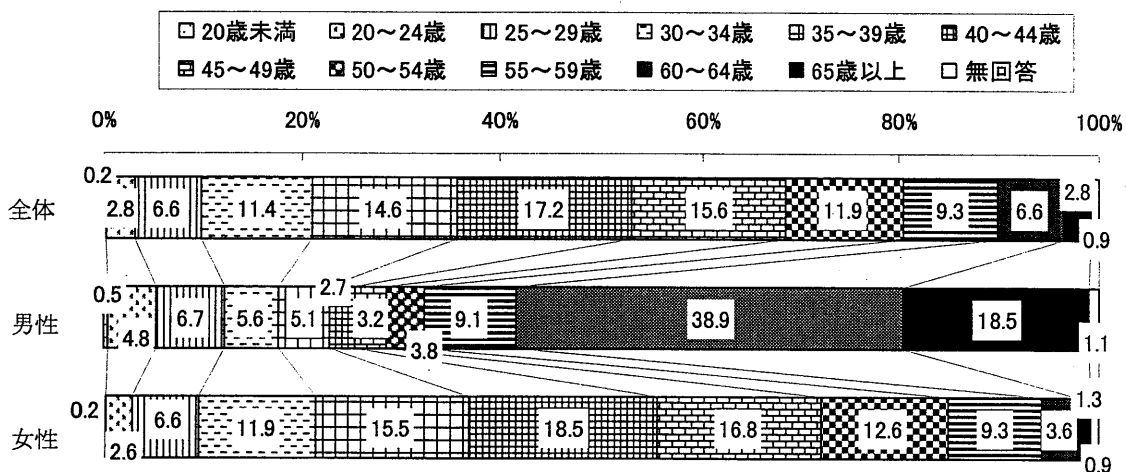
1. 基本情報

回答者（パートタイム労働者）の性別、年齢、職種及び現在の会社での勤続期間、雇用契約期間は以下のとおりである。（図表13、14、15、16、17、付属統計表第37、38、39、40、41、42、43表）

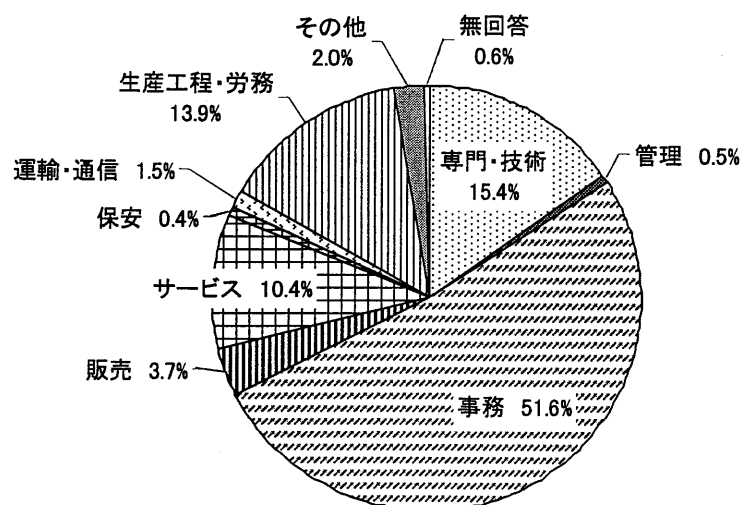
図表13 性別



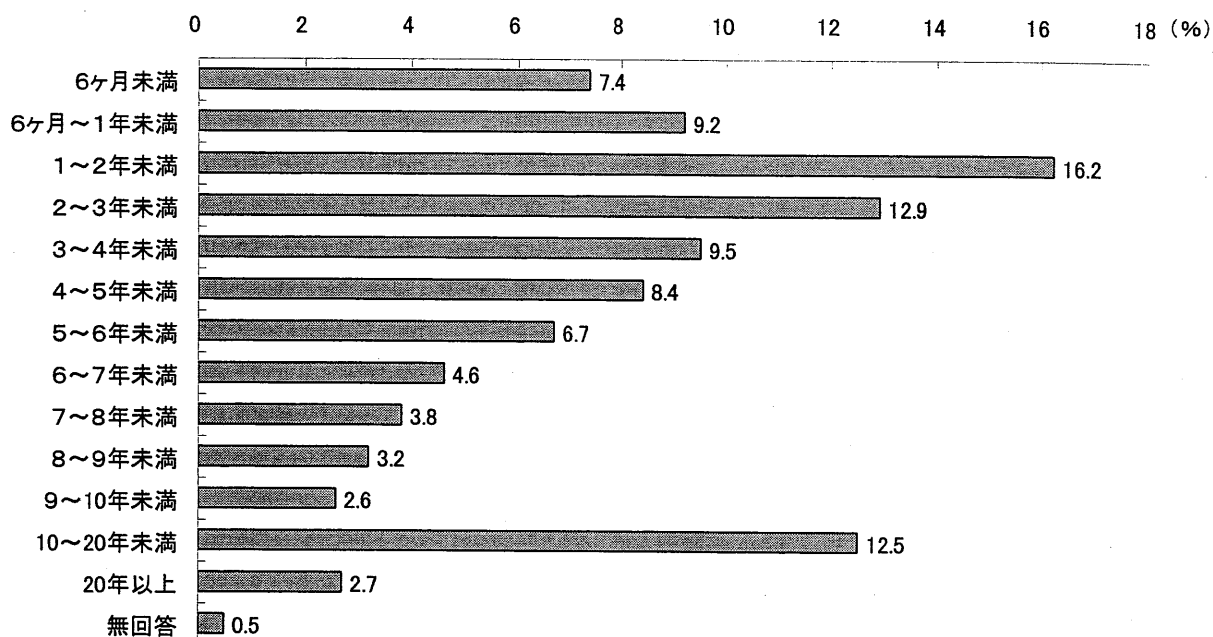
図表第14 年齢



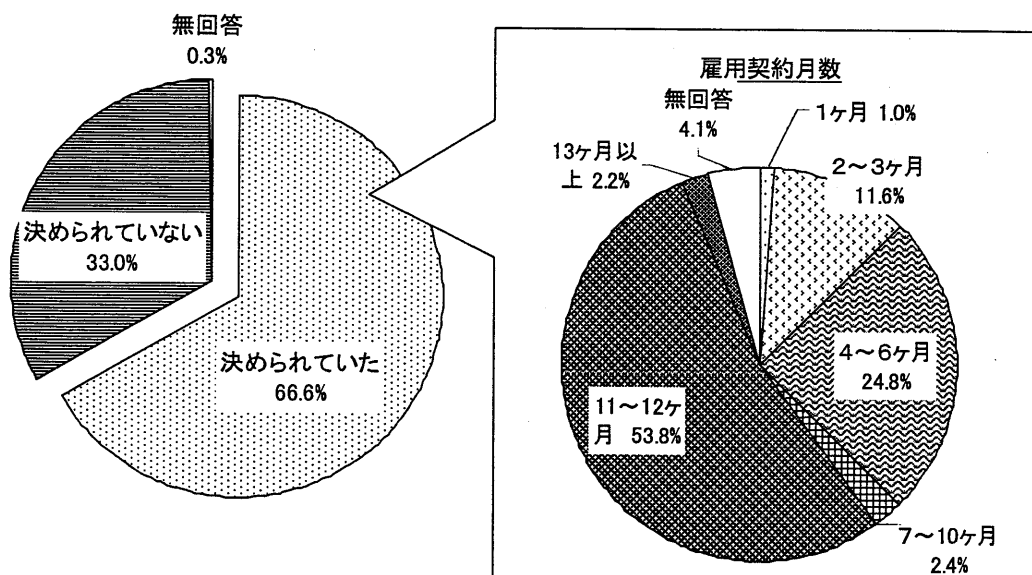
図表15 職種



図表 16 勤続期間



図表17 雇用契約期間の決定状況及び雇用契約月数



2. 給与形態等

給与形態等についてみると、「時間給」とする者が92.5%となっている。（付属統計表第44表）

また、平成17年の夏期賞与（ボーナス）の支給についてみると、「あった」とする者が54.2%となっており、支給額は、2万円以上5万円未満が最も多く33.2%となっている。（付属統計表第45、46表）

年収（税込み）をみると、150万円以上300万円未満が最も多く20.6%となっている。（付属統計表第47表）

3. 社会保険の加入の有無

社会保険の加入の有無についてみると、「雇用保険に加入している」とする者は、79.2%となっており、「厚生年金に本人が被保険者として加入している」とする者は、42.1%となっている。（付属統計表第48、49表）

4. 役職

役職（部課長、主任、グループリーダー等）に就いているかをみると、「役職についている」とする者は、3.8%となっており、そのうち、「部課長、部課長代理クラス」は7.8%となっている。（付属統計表第50表）

5. 出勤日数、労働時間等

1週間の出勤日数は「5日」とする者が最も多く67.9%となっており、1日の所定労働時間は「5時間以上6時間未満」、次いで「7時間以上8時間未満」が多く、それぞれ、26.2%、23.3%となっている。（付属統計表第51、52表）

平成17年7月の残業の有無についてみると、「あった」とする者が32.9%となっており、「あった」とする者について月間残業時間をみると、5時間未満の者が最も多く38.0%となっている。（付属統計表第53表）

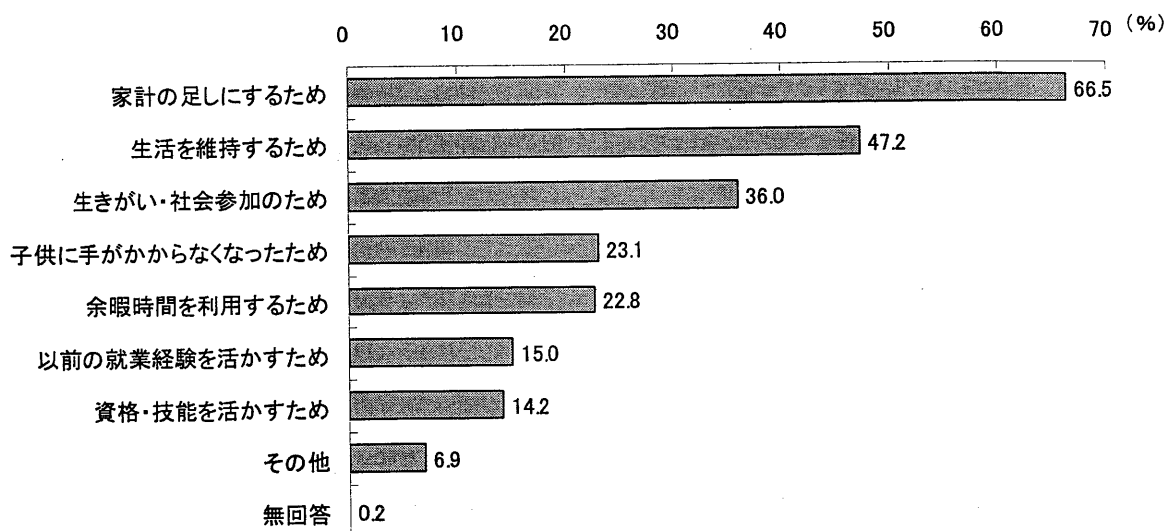
同じく平成17年7月について、所定労働日以外の日への出勤の有無についてみると、「あった」とする者は8.1%となっており、「あった」とする者について、その日数をみると、1日か2日とする者が最も多く、81.3%となっている。（付属統計表第54表）

6. 働く理由

働く理由（複数回答）についてみると、「家計の足しにするため」が最も多く66.5%となっており、次いで「生活を維持するため」が多く47.2%となっている。

13年調査と比較した場合、「家計の足しにするため」、「生きがい・社会参加のため」、「子供に手がかからなくなったため」、「以前の就業経験を活かすため」、「資格・技能を活かすため」が上昇している一方、「生活を維持するため」、「余暇時間を利用するため」は横ばいとなっている。（図表18、付属統計表第55表）

図表18 働く理由〔複数回答〕

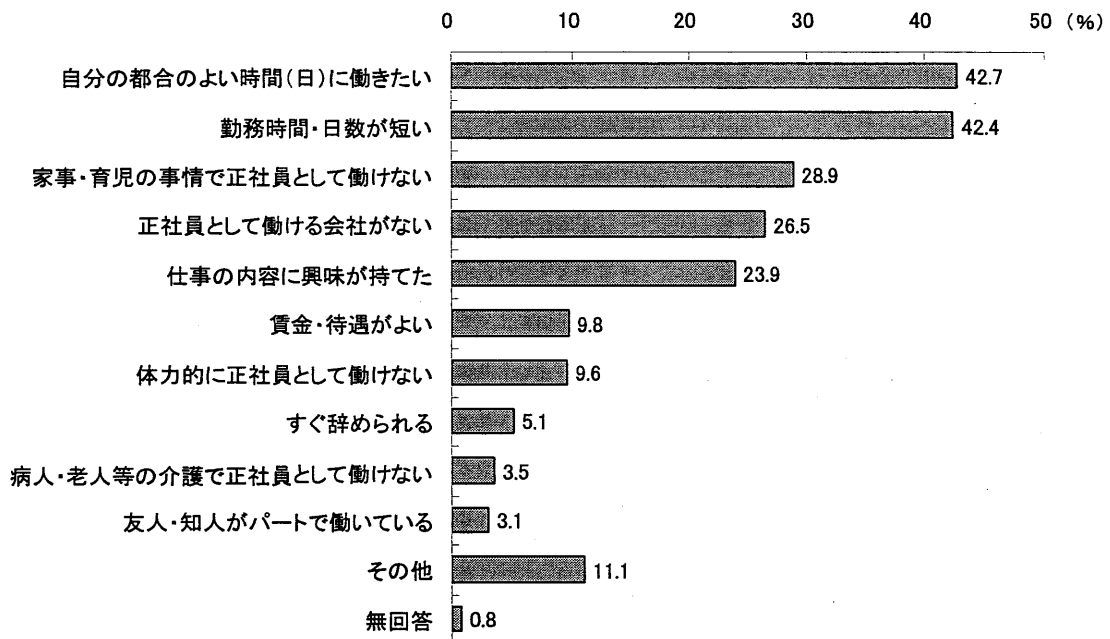


7. パートを選択した理由

パートを選択した理由（複数回答）についてみると、「自分の都合のよい時間（日）に働きたいから」が最も多く、42.7%となっており、次いで「勤務時間・日数が短いから」が多く42.4%となっている。

13年調査と比較した場合、「勤務時間・日数が短いから」、「家事・育児の事情で正社員として働けないから」、「正社員として働ける会社がないから」、「体力的に正社員として働けないから」、「病人・老人等の介護で正社員として働けないから」は上昇しており、「自分の都合のよい時間（日）に働きたいから」、「友人・知人がパートで働いているから」は低下している。「仕事の内容に興味を持てたから」、「賃金・待遇が良いから」、「すぐ辞められるから」は横ばいとなっている。（図表19、付属統計表第56表）

図表19 パートを選択した理由〔複数回答〕



8. 職務が同じ正社員の有無

職務が同じ正社員の有無についてみると、「いる」とする者が49.8%となっている。（図表20、付属統計表第57表）

職務が同じ正社員がいる場合、職務が同じ正社員と比べて賃金が低いと感じたことがあるかについてみると、「低いと感じたことがあるが納得できる」とする者が41.1%となっており、「低いと感じたことがあり納得できない」とする者が26.8%となっている。（図表21、付属統計表第58表）

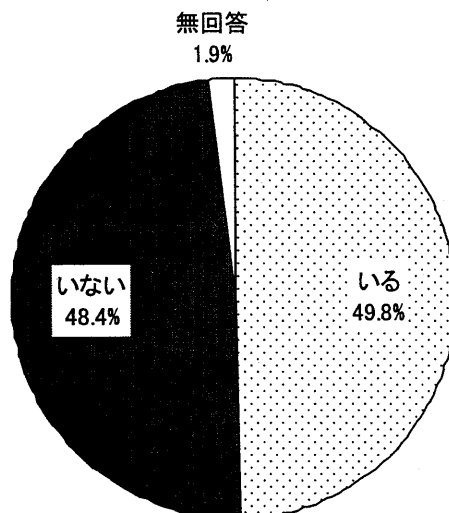
「低いと感じたことがあるが納得できる」とする者のうち、納得できる理由（複数回答）についてみると、「勤務時間の自由度が違うから」が最も多く55.9%となっており、次いで「もともとそういった内容で自分も納得している」、「責任の重さが違うから」が多く、それぞれ、51.5%、50.7%となっている。（図表22、付属統計表第59表）

「低いと感じたことがあり納得できない」とする者のうち、納得できない理由（複数回答）についてみると、「同じ仕事をしているにもかかわらず格差がある」が最も多く81.4%となっている。（図表23、付属統計表第60表）

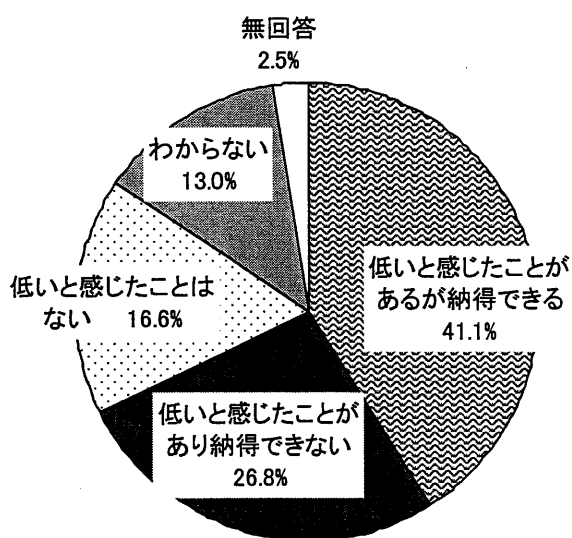
また、職務が同じ正社員がいる場合に、時間当たりの賃金水準で納得できる水準についてみると、「8割程度」が最も多く32.6%となっている。（図表24、付属統計表第61表）

(注) 「職務が同じ」とは、通常従事する業務内容だけでなく、作業レベル（難易度）、求められる能力、責任や権限の範囲も含む。例えば、トラブル発生などの臨時・緊急の対応、ノルマや与えられた権限といった業務上の責任について、正社員と同じように課せられているか考慮するとともに、作業を行う上で必要な能力、作業の難易度、肉体的・精神的負担なども含む。

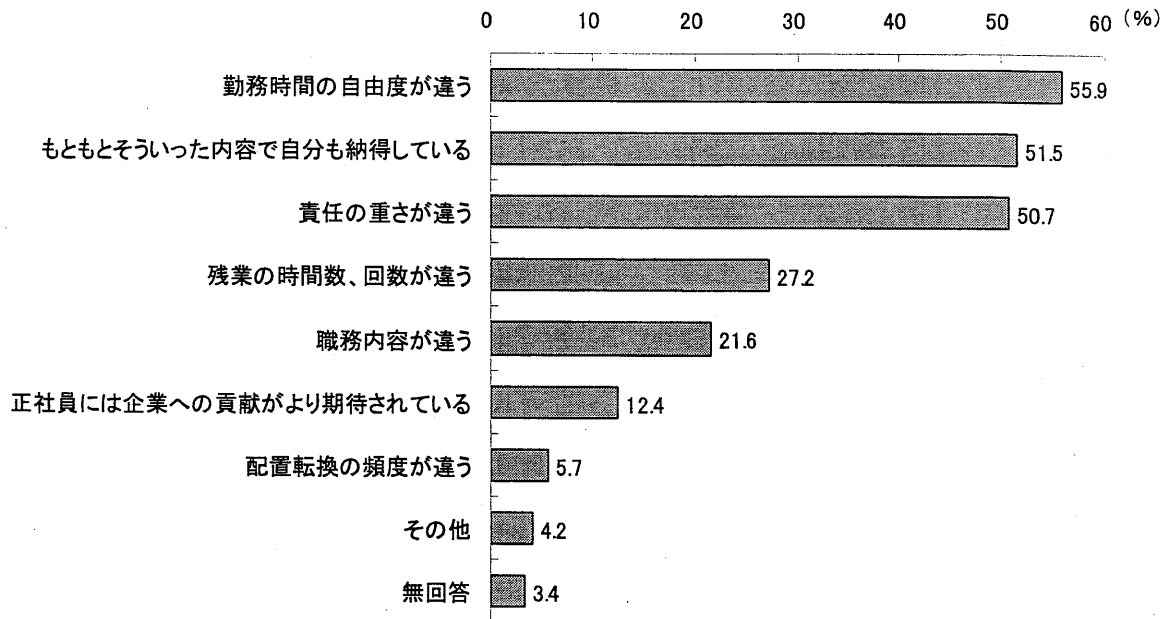
図表20 職務が同じ正社員の有無



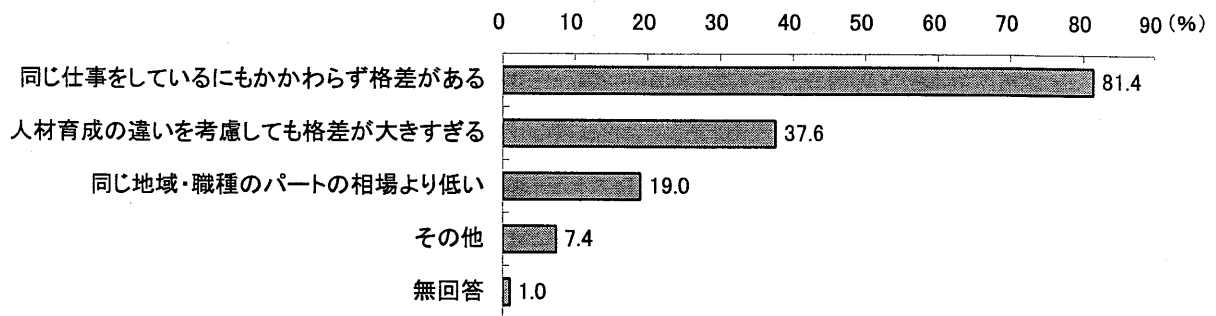
図表21 賃金が低いと感じたことの有無



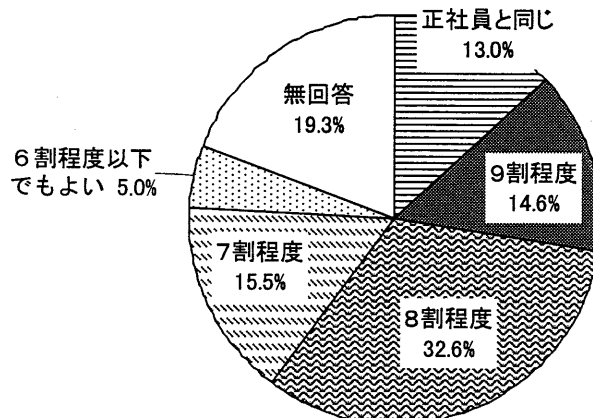
図表22 低いと感じたことがあるが納得できる理由〔複数回答〕



図表23 低いと感じたことがあり納得できない理由〔複数回答〕



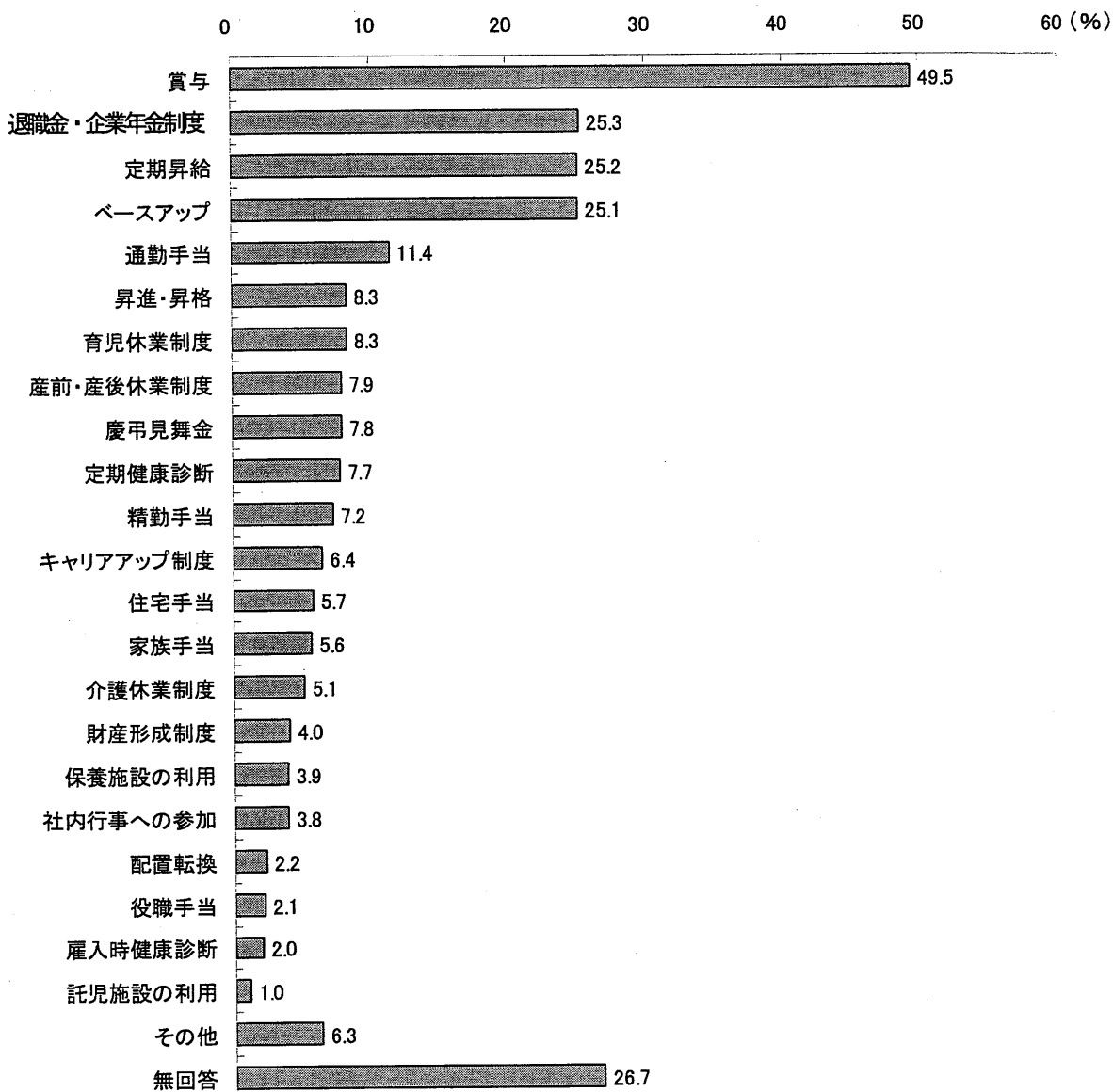
図表24 職務が同じ正社員と比較して、納得できる賃金水準



9. 賃金以外の処遇等で職務が同じ正社員と取扱いが異なっており納得できないもの

賃金以外の処遇等で職務が同じ正社員と取扱いが異なっており納得できないもの（複数回答）についてみると、「賞与」が最も多く49.5%となっている。（図表25、付属統計表第62表）

図表25 賃金以外の処遇等で納得できないと考えているもの〔複数回答〕



10. 年収の調整又は労働時間の調整の有無及び調整の理由

年収の調整又は労働時間の調整の有無についてみると、「調整している」とする者が32.5%となっている。（付属統計表第63表）

また、調整している場合の理由についてみると、「自分の所得税の非課税限度額（103万円）を超えると税金を支払わなければならないから」が最も多く54.9%となっている。（付属統計表第64表）

11. 労働組合の加入状況

労働組合の加入の有無についてみると、会社に参加できる組合がある場合に、「加入している」とする者は14.6%となっている。（付属統計表第65表）